

上智大学アジア人材養成研究センター創立25周年記念
ソフィアシンポジウム 第2回水利都市国際シンポジウム
「カンボジア・アンコール王朝の水利都市とアンコール・ワット建立」

日時: 2022(令和4)年11月5日(土)13時~17時30分

開場: 12時30分~

要事前申込み: Zoomウェビナー 150名(先着順)

場所: 上智大学国際会議場(2号館17階)千代田区紀尾井町7-1

言語: 英語/日本語(同時通訳)

B.P.グロリエ論文が1979年に『フランス極東学院紀要』(BEFEO)に掲載され、これまで賛否をめぐり大論争が続いてきた。同論文は、アンコール王朝大繁栄の「経済活動」を裏付ける画期的論文であった。スールヤヴァルマン2世が登位した1113年頃の経済的背景を図式化すると、「当時の貯水池(バライ)→二期作→食糧の確保→人口の増加→敷地決定→作業員確保」の仮説となる。王朝の大舞台となる扇状地は、北北東から南南西にかけて傾斜し、約1キロ行って約1メートル下がり、その下方で田地进行する。これがアンコール王朝の集約農業の原点であった。扇状地の上部の高いところに貯水池(バライ)を盛土工事で造り、そこへ雨水や河川の水を引き入れ、バライの内側と外側に小溝をつけ、副水路とした。排水口から水路により田地へ給水された。王は37年かかってアンコール・ワットの大伽藍を造営した。しかし一部は未完成であった。その基礎部分は187メートル×215メートル、中央部の5基の尖塔の高さが65メートル(現在の9階建てのビルに相当する)。さらに環濠が幅200メートル、周囲が5.5キロメートル、18段の敷石壁に囲まれ、約500万立方メートルの水量を貯えている。大工事であった。建設における水利工事は上首尾であった。

私たちは、B.P.グロリエ調査報告に基づき、さらにJICAが作製した5000分の1の地形図データを使ってグロリエの「水利都市論」の背景を立証するものである。第1回目の「水利都市国際シンポジウム」は2000年に開催し、今回はその第2回目にあたる。1965年G.セデスが指摘した碑文の史料限界論を受けて、さらにNASAおよびフランス極東学院による綿密な科学的調査成果に立脚し、巨大石造伽藍を造営できた当時のクメール人の民族エネルギーとその叡智を、ここに「水利都市論」として議論するものである

司会進行: ニム・ソティーン(上智大学研究員)

総合司会: 坪井善明(早稲田大学名誉教授)

13:00~ 開会挨拶

佐久間勤(上智学院理事長/イエズス会高等教育担当理事)

13:10~ 問題提起(1)(30分)

「水利都市論を提起したB.P.グロリエ先生」

坪井善明(早稲田大学名誉教授)

13:40~ 問題提起(2)(30分)

「JICA(国際協力機構)のコンピューターから田越灌漑の畦道発見」

石澤良昭(上智大学アジア人材養成研究センター所長)

14:10~ 報告(60分×3名)

Controlling Water with Stone and Sand in Greater Angkor: A study of outlets

Dr. ロランド・フレッチャー(シドニー大学/オーストラリア)

Sacred and Profane Donations: the Gift of Waterworks in Khmer Epigraphy

Dr. ドミニク・スーティフ(フランス極東学院/シエムリアップ)

Angkor Hydraulic City and its Water Management System

H.E. ハン・ペウ(カンボジア王国政府アプサラ機構総裁/水利都市学)

メールメッセージ: 「第1回水利都市国際シンポジウム(2000年)から22年を顧みて」

Dr. クリストファー・ポチエ(フランス極東学院/パリ)

17:10~ 質疑応答

17:20~ 閉会挨拶

H.E. トウィー・リー閣下(駐日カンボジア大使)

石澤良昭(上智大学アジア人材養成研究センター所長)



お申し込みはこちら